

3. 外部評価結果

外部評価結果(総括)

【評価結果】
<p><input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。</p>
<p>[実施状況に関するコメント]</p> <p>平成 19 年に始まった北陸がんプロフェッショナル養成プログラムに引き続き、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランとしてさらに進んだ形で順調に遂行され、化学療法、緩和ケア、小児がんなど多岐のがん医療に携わる多職種専門スタッフ養成を進めている。その方策も研修会やテレビ会議によるキャンサーボード症例検討会、市民公開講座など多種多彩な試みがなされ、専門的なスタッフやリーダー、研究者などが養成されていることは大きな成果である</p>
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全国eクラウドシステムにより教材コンテンツが充実しており、がんプロキャンサーボード症例検討会によりネットワークが拡充され、がん診療レベルの向上と均てん化が進展している。・ プランの履行状況もテレビ会議等を活用して確認され、北陸 3 県関係多団体が関与して組織している北陸がんプロ運営協議会で定期的に検証され、テレビ会議システムによりアンケート調査もなされている。・ 一般向けの情報発信も盛んで市民公開講座や北陸がんプロサイトHP、新聞掲載などがん患者や一般市民への正しい情報開示につながっている。・ がん経験者の生活や医療過疎地の問題、休職中の看護師の復帰、がんサロンなど社会的側面や患者に向き合う視点など広い範囲をカバーしている。
<p>(改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 各拠点やコースによって受講者数などに格差があり、調整が必要。・ 各コース履修者、特に医師以外のメディカルスタッフの増加対策を繰り広げたい。・ プログラム履修者がその後現場でどう活躍しているか、このプログラムがどう影響したかを知る方法を探りたい。・ 各拠点と北陸がんプロサイトHPとの相互リンクの充実が必要。

外部評価報告(委員提出用)

外部評価委員名: 岩田 章

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

平成 19 年に始まった北陸がんプロフェッショナル養成プログラムに引き続き、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランとしてさらに充実したプログラムのもとに多職種のがん診療プロフェッショナルを育成しておられる事は素晴らしい事と感じました。4 医科大に看護大学も加わり、地域の病院も含めて多くの人が入学できるようになっており専門的で進んだ内容になっているものと見受けられます。

(優れた点)

- ・がんに関する基礎的研究などは日進月歩であり、研究分野も多方面にわたっており常に一医療人が新しい知識を得ることは非常に困難ですが、がん診療のプロフェッショナルとして患者さんと向き合えるスタッフを養成し新しい知見を発信し続けている事は頼もしい限りです。
- ・プログラムの中に英語講座を取り入れ、医療過疎地の問題や休職中の看護師に対する視点など社会的問題も加わり多岐にわたる優れたプログラムです。
- ・専門医療スタッフ養成や研究者を養成するばかりでなく、現場でのチームリーダーを養成するコースもあり非常に大切なことと感じました。
- ・

(改善を要する点)

- ・内部評価でも問題になったそうですが、コースによっては入学者数が非常に少ないものがあり、それは各大学での単位の取り扱い方が違うという理由が考えられるとのことで、それをいたしかたないと思えるか問題と考えるか意見の分かれるところでしょう。
- ・医師以外の職種の皆さんの入学数を増やしていきたいと考えます。
- ・
- ・
- ・

外部評価報告(委員提出用)

外部評価委員名: 前川 信政

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

・北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの活動状況については、関係各位の努力により、連携5大学、地域医療機関、自治体、患者会等による運営協議会をはじめ、各委員会の活動や、コーディネーターによる連携推進等により、順調に進捗していると思われ、今後の更なる充実と成果が期待される。

(優れた点)

- ・全国 e-クラウドシステムにより、教材コンテンツの拡充がなされている。
- ・テレビ会議システム導入によりがん診療連携拠点病院等との診療ネットワークが構築され、がんプロキャンサーボード症例検討会の実施が、各拠点大学の持ち回りで定期開催され、多職種の参加者を得てがん診療地域ネットワークが拡充され、がん診療レベルの向上、均てん化が進展している。今後も新規拠点の導入が企画されている。
- ・がん看護事例検討会開催や、地域がん医療に貢献できる看護師養成コースにより地域看護の活性化、休職中看護職復帰につながり、更に子育て中の参加者のために託児システムの設置がなされ、一人でも多く参加しやすくする工夫がされている。
- ・各拠点大学で地域医師会や各種団体との連携で、市民公開講座が開催され、北陸がんプロサイト「がんプロ.com」ホームページの充実等により医療従事者、一般市民への最新のがんに関する情報提供が継続的になされている。
- ・

(改善を要する点)

- ・各拠点間の各コース履修者受け入れ達成度に若干の差があるように思われ、履修者の増加のため、各拠点間での更なる連携の強化に努めることが望まれる。
- ・養成コース履修者のアンケート調査の継続とその結果も踏まえて、各コース履修者の増加のための対策を考慮する。
- ・一般市民、がん患者さんや家族のがん医療に対する色々な悩みや思いが専門医養成コース履修者に届くような仕組みが要望される。

外部評価報告(委員提出用)

外部評価委員名: 和田 真由美

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

数年にわたるプロジェクトを質の向上を図りながら継続されていることに、関わる皆様の努力に対し敬意を申し上げます。

基礎から臨床までを俯瞰するがん研究者・医療人の養成ならびに、指導的立場のリーダー育成に、今後さらにがんプロの事業が大きく関わっていくことを期待します。

(優れた点)

- ・情報発信は積極的で良い。患者向けのわかりやすい内容、多職種からの講演など充実している。また各大学主催の公開講座も関心が持てる内容が多い。
- ・公開講座やセミナーを患者の視点で行っているのはとても良い。医療情報だけでなく、がんを体験した後の生活（就労を含めた社会生活全般）など、参加者の欲しい情報を取り入れ、がん患者の生活を支える在り方をも追及している。
- ・公開講座の講演内容の新聞掲載はインパクトがある。がんプロ HP の動画配信では、専門医自らが、がんの情報や最新の治療を伝えているので安心感、信頼感が持てる。
- ・ICT が良く活用され、協力病院との連携が順調に進んでいる。
- ・がん哲学外来やがんサロンなど、直接的な治療に加えて、患者に寄り添うことも重視している。

(改善を要する点)

- ・進捗状況報告書において言語表記されているが、その上で項目別に達成目標を数値化できないか。(ABC ランクなど)
- ・インテンシブコースへの参加が、大学間で差があるので、カリキュラムや単位取得の違いなど洗い出し、難しいかもしれないが統一性を図るなど、今後の課題として大学間での意見交換が必要と思われる。

- ・研修会・講習会の開催件数や参加人数も重要な指標だが、受講したこと、さらには認定を受けたことが現場でどう影響しているか知りたい。(スキルアップ、キャリアアップしたことが仕事への自信や患者さんへの恩恵になっているか)
- ・受講者や認定取得者の声(文字またはインタビューでも)をHPに掲載できないか。(県立看護大のがんプロ事業報告書(冊子)では、受講者の原稿やセミナー内容など詳しく掲載されているが、他の大学でもこのような冊子を作成しているのか?)

【患者の視点で】

- ・市民公開講座は、演者が多くあわただしい感じを受けるので、もう少し焦点化できないか。学生の関わりや医学展との同時開催は良い。
- ・がんプロHPから、がんプロに関わっている大学病院・看護大のHPにリンクできるとよい。
- ・県立看護大のHPは、がんプロHPを紹介しているが、他の関連大学病院HPでは見当たらないのが残念。
- ・がんプロHPの患者向け(各種がんの解説)の更新。

【がん対策推進基本計画に関連して】

- ・小児がんへの取り組みを強化して欲しい。
- ・小中学生、高校生対象のがん教育に関われないか。病気の予防や健康への関心にも力を入れて欲しい。いわゆる医療費や社会保障制度の2025年問題の事を思うと、病気にならない人を増やす方向性を示すことが必要。

最後に

高度先進医療だけでなく、へき地医療や教育、高齢化など、これからの日本のがん医療が抱える課題を解く標準化システムが、本がんプロから生まれることを期待しています。がんになっても安心して暮らせる社会の構築に一石を投じてください。

外部評価報告(委員提出用)

外部評価委員名: 榊原 千秋

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

がん教育改革によるがん専門医療人養成、地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成、がん研究者養成のそれぞれのプロセス評価と具体的な数値目標と成果がしめされることが望まれる。がん専門医療人育成の成果は、一般市民やがん患者らにもわかりやすい形で示されるものであって欲しい。たとえば、優れたがん専門医療人は、どの地域のどの病院に養成されたのかは、貴重な情報ではないかと思う。医療や医療教育が今後より市民にも見えやすいものであって欲しい。また、がんプロの成果を、治療的視点だけでなく、当事者の体験が医療の現場に活かされることが望まれる。当事者性をふまえたがん教育改革が広く医師や看護等、他分野の基礎教育にも共通に導入していくしくみをつくっていただきたい。

(優れた点)

- ・がんプロキャンサーボード症例検討会が定例化し充実している。さらに拠点が增多ることが望まれる

- ・
- ・
- ・

(改善を要する点)

- ・成果報告の中で、大学間の格差、地域の格差が垣間見られた。各大学で積極的に取り組まないのであれば予算の配分をしない等、是正を望みたい。

- ・

外部評価報告(委員提出用)

外部評価委員名: 志岐弘之

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

本プランの平成24年度～同26年度(3年間)に亘る実施状況については、当該年度の各実施計画に沿って順調に執行してきており、達成目標である「放射線療法、化学療法、手術療法、緩和ケア、小児がん、がん研究等のがん医療に携わる専門的な医療従事者の育成」及び「チーム医療、がん登録、がんの普及啓蒙等の推進」について、がん医療に携わる専門的な医療従事者各養成コースの履修生は、申請時目標受入人数を上回ったり、下回ったコースの場合は、即時その対応措置が施され、また、市民講座開催・FD講演会企画による定期的な研修会の実施、並びに、テレビ会議方式によるがんサージカルボード症例検討会・がん看護事例検討会の定期的開催等により前記達成目標の実現化が完全になされている。

このように前記期間実施計画としては完全に遂行され、文部科学省・がんプロフェSSIONAL養成基盤推進プラン事業が期待するがん教育研究基盤の構築、がん教育改革の推進及びがん医療の均てん化という成果・効果も期待以上に挙げられている。

(優れた点)

1. 臨床現場での多職種連携によるチーム医療のリーダー人材の養成

「医科系がんチーム医療リーダー養成コース」、「がん看護専門看護師養成コース」、「がん専門薬剤師養成コース」及び「がん専門放射線技術・医学物理コース」等が設置され、ほぼ計画に沿った履修生を輩出し、チーム医療マインドを持ち、多職種連携を推進する医療スタッフである地域がん医療のリーダーの養成に極めて優れている。

2. 保健科学、薬学も交えた多彩な教育システムと ICT (Information and Communication Technology) 教育の高い充実度

チームリーダーとして活躍できる多職種がん医療スタッフ養成のため履修科目も保健科学や薬学も交えた多彩な教育システムを構築すると共に、これを米国がん学会、欧州がん学会、臨床腫瘍学会の臨床腫瘍医養成コアカリキュラムに準拠した全国 e-learning クラウドシステムと連携し、従来の教材 236 コンテンツから教材 612 コンテンツに拡充させ、履修質を高めたことは著しく優れている。

3. 本プランの履行状況のチェックシステムの多層性

本プランの履行状況の確認等は、テレビ会議による総務委員会等で定期的に検証されている。また、評価に関しては、自己評価や外部評価ばかりでなく、北陸3県の自治体、患者会、医師会、がん診療拠点病院等及び5大学がんプロ関係者で組成し、本事業運営の最高意思決定機関である北陸がんプロ運営協議会において定期的に検証し、併せてテレビ会議システムによるがん看護事例検討会において、その効果や内容等についてアンケート調査を実施するなど重層的な評価・検証システムを機能させていることは、大変優れている。

4. 本プログラム終了後の継続事業の実現性・具体性

本プラン新設3講座は、各大学で予算確保により存続させ、教育コースは、基本的に継続させる予定となっている。中でも、がんプロ共通科目の大学連携による単位互換は、北陸地区のがん教育のコンソーシアムの一環として位置付けられ、教育モデル化が図られる予定とされる。そして、引き続き「がんプロフェッショナル養成基盤推進」を継続進展させるべく各大学、附属病院、連携拠点病院、医師会、本プログラム・コーディネータ等で組成するNPO法人を既に設立始動させており、本プログラムの成果を「資産」として組織維持・発展体制構築が順調に進んでいる点は、継続的ながんに特化した医療人材の養成・がん教育研究基盤の構築・がん教育改革の推進及びがん医療の均てん化を促進させる実現性、具体性で極めて優れている。

(改善を要する点)

実施状況に関するコメントで述べたように、評価対象期間での本プラン事業は、初期目標・計画以上に達成されており、改善を要する点は、特にない。

本プラン申請時の推進委員会からの「改善を要する点等」のコメントである「従来のがんプロフェッショナル養成プランとの相違や具体性にやや乏しい」点に関しては、本プランは、本来、従来プランの継続・延長発展上にあり、従来プランとの相違や具体性を提示することは難しいところであるが、当該課題に対しては、「金沢大学、富山大学及び福井大学において、がんに特化した臓器横断的な講座新設により、がんに特化した集学的治療、地域がん医療の質的向上など、国内外の機関との連携を通じて、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医の育成を図ることができる」とがん専門医療人材養成の更なる拡大・ステップアップを図るべく対処・解決されている。